

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02285

研究課題名(和文) 途上国における宗教を基盤とする社会的企業：ハイブリッド組織の理論構築を目指して

研究課題名(英文) Toward advancing theoretical perspectives of hybrid organizations: Insights from faith-based social enterprises in the developing countries

研究代表者

木村 力央 (Kimura, Rikio)

立命館アジア太平洋大学・サステナビリティ観光学部・教授

研究者番号：50517034

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、カンボジアとエチオピアの社会的企業におけるビジネス収益性、社会的使命、宗教的使命の三つのロジックの下で経営するハイブリッド組織の形態に注目し、比較事例分析による類型化を試みた。それぞれの企業がどの程度三つのロジックをバランス良く維持しているか評価し、四つの類型に分類した。コロナ禍でも、一部の企業がロジックのバランスとレジリエンスを示したことは、社会的企業の理論的理解を深める上で有用な結果となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、Besharov & Smith (2014)とWry & York (2017)による社会的企業の組織論に基づき、カンボジアとエチオピアの社会的企業のロジックの類型化を行った。ビジネス収益性、社会的使命、宗教的使命の三つのロジックがどのように関連し、補完もしくは競合するかについての洞察を提供し、起業家のアイデンティティがロジックの選択・意思決定に影響を与える様子を明らかにした。また、宗教的ロジックがビジネスロジックや社会的使命と競合せず補完的に作用することで、組織のレジリエンスを高める可能性も示唆した。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the operational manifestations of social enterprises in Cambodia and Ethiopia managed as hybrid organizations under the logics of business profitability, social mission, and religious mission. Through a comparative case analysis, we made an attempt to typologize these organizations, necessary for the construction of a theoretical framework. By evaluating the balance and interaction of complex logics within each enterprise, the organizational forms were classified into four typologies. Notably, despite the impacts of the COVID-19 pandemic, certain enterprises managed to maintain the balance of the three logics and demonstrated resilience. These findings contribute significantly to deepening our understanding of the balance of logics and resilience within social enterprises.

研究分野：社会学

キーワード：社会的企業 カンボジア エチオピア ハイブリッド組織 制度ロジック 批判的实在論 宗教性 コロナ禍

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

途上国の貧困問題解決を目的とした社会的企業は、収益性に加えて、宗教を基盤とした経営理念も含めた複数の使命を内在する「ハイブリッド組織」であるケースが多い。キリスト教を基盤としたカンボジアとエチオピアにおける社会的企業の比較事例研究では、収益性と社会的使命の相互間の補完性があることや、宗教的使命に偏重する起業家はその生い立ちに影響を受けるといった、社会的企業のハイブリッド性の類型とその実態を解明してきた(基盤研究(C)16K04243、2016-2019年度)。特に組織内の複雑性を包含したハイブリッド性を、批判的实在論に依拠した制度ロジック論を援用した枠組みで理解する道筋も、研究者らによって立てられた。そのことを受けて、この研究は、起業家個人や組織における宗教性と共に、それらを取り巻く社会構造も分析枠組みの射程に据え、より総合的な観点から「宗教と社会的企業」研究の理論構築を視野に入れた形で開始された。

2. 研究の目的

本研究は、社会的起業家の宗教的価値(個人・ミクロ)、組織構成員による宗教的価値の共有と実践(組織・メゾ)、そして起業家達を取り巻く社会構造(マクロ)の視点から、宗教を基盤とする社会的企業の意思決定に及ぼす要素を明らかにすることを目的とする。特に急速な経済発展をしているカンボジアとエチオピアで、近年盛んとなっているキリスト教を基盤とした社会的企業活動の比較事例分析を通して、以下の三つのレベルで重層的に解明する。1) 起業家の生い立ちと起業までの過程で得られた天職概念等の宗教的価値観、2) 組織の構成員(職員・投資家等)による使命の理解や実践の度合い、3) 社会的企業活動の妨げとなり得る法制度等、途上国に特有の社会構造。

3. 研究の方法

(1) 文献レビュー

ハイブリッド組織である社会的企業のビジネス収益性と社会的使命の両方の追及におけるジレンマに焦点を当てた研究で、制度ロジック論(Institutional logics)を援用したものを中心に読み込んだ。制度ロジックとは、人の行動や認知に影響を与え得る社会的前提や価値観を意味する(Thornton, Ocasio & Lounsbury, 2008)。また本研究が対象とするキリスト教に基づく社会的企業は、この二つの使命に加えて宗教的使命を含むため、宗教性に関する文献もレビューした。それらの社会的企業においては、宗教的使命のゆえに制度的多元性(Institutional pluralism)は複雑化する(Rundle, 2012)。さらに、批判的实在論に依拠した制度ロジック論の研究に関してもレビューし、本研究の理論的・手法的側面に反映させた(例えば、Delbridge & Edwards, 2013)。加えて、ここ数年のコロナ禍に鑑み、社会的企業に対するコロナ禍の影響に関する最新の文献も読み込んだ(Bacq & Lumpkin, 2021等)。

(2) データ収集

福音派プロテスタントの背景を持つクリスチャンの社会的起業家に、収益性・社会的使命・宗教的使命に関して深層インタビュー(in-depth interview)を実施した。批判的实在論に基づいたArcher (2003)の個人誌的アプローチ(biographical approach)を、インタビュー手法の枠組みとして採用した。すなわち、インタビューにおいて、起業家の置かれているコンテキストとそれに対する彼らの行為主体性だけでなく、そのような主体性に影響を与えている彼らの生い立ちの把握も試みた。

(3) データ分析

主題分析(thematic analysis)によってデータを帰納的に分析した。すなわち、コーディングを施し、それをカテゴリー化し、さらにカテゴリー間の動きを確認した(佐藤, 2008)。

4. 研究成果

(1) 類型化

カンボジアの12の対象社会的企業が、収益性・社会的使命・宗教的使命のどのロジックに重点を置いているかを類型化するために、Besharov & Smith (2014)の「ロジックの適合性(compatibility)」と「ロジックの中心性(centrality)」を大まかなフレームワークとして援用した。ロジックの適合性とは、あるロジックが他のロジックの補完的な役割を果たす、或いは競合することを指す。幾つかのカンボジアの事例では、社会改善につながるビジネスを展開し、提供するサービスや製品を通して貧困層や子供らの栄養状態を改善することなどにより、ビジネス自体が社会的使命を補完していた。エチオピアで教育ビジネスを展開する起業家達の宗教的なロジックは、持続的な経営を志向するビジネスロジックと対立構図にあるのではなく、それら二つはむしろ相互補完的なものと受け止めている傾向が明らかになった。一方でロジックの非

適合性とは、例えばビジネスロジックと社会的使命のロジックが競合している状態がある。競争が激しい市場において再訓練等を必要とする社会的弱者や貧困層を雇用することは社会的企業にとって不利であることが、多くの事例に見られた。

一方ロジックの中心性は、起業家は複数のロジックを同等に扱っているか、或いはあるロジックを偏重しているかを示す (Besharov & Smith, 2014)。この中心性の概念は、起業において個々の起業家のアイデンティティが、どのようにロジックの選択に影響するかを解明した Wry & York (2017)によるアイデンティティ基盤型アプローチ(identity-based approach)と親和性がある。第一に起業家のアイデンティティが、彼らがアイデンティティ通りに行動するように、「内なるアカウンタビリティ圧力」として機能する。この考え方は、行為主体性は生い立ちに影響を受けるという Archer (2003)の理論と呼応している。事例の中でも、これまでの宗教的体験のために宗教的使命に重点を置く起業家や、以前のビジネス経験のゆえに収益性を重視する起業家がいた。第二に Wry & York (2017)は、「外からのアカウンタビリティ圧力」により、起業家のアイデンティティが社会的関係性の中で発揮されると述べている。事例で散見されたのは、起業家のアイデンティティが彼らのコンテクストの一部である理事会や社会的投資家などに対して、顕著に行動化したことであった。

これらの類型化のフレームワークを援用し、カンボジアの12の対象社会的企業を類型化した結果、ビジネス収益性、社会的使命、及び宗教性の三つのロジックを両立させていた「バランスの取れた起業家」(5社)、「ビジネスを重視しがちな起業家」(3社)、「ビジネス及び社会的使命だけを重視する起業家」(2社)、そして「社会的使命及び信仰だけを重視する起業家」(2社)に分類できた。研究結果は、Kimura (2021)を通して発表した。エチオピアでは、低学費私立学校(low-fee private schools)に着目し、三つのロジックの追求を志向するために、特に宗教的理念に共感する職員を意図的に雇用することで、その理念に基づいたサービス(人格、道徳教育等)の提供を競争優位性として打ち立てている事例(7社)が見られた。また、企業活動方針全体に流れる「価値観」として、特にキリスト教的宗教性を反映させている事例(4社)もあり、「内なるアカウンタビリティ圧力」としての自らの宗教的アイデンティティをあえて前面に出し、彼らの活動の妨げとなる態度で振る舞う政府官僚に対しても、信念をもって応答し、建設的な関係性の構築に至らせたことも明らかになった。

(2) コロナ禍の影響

カンボジアの「バランスの取れた社会的企業」(5社)に、どのようなコロナ禍の影響があったかをはかるために現地調査を実施した(2022年9月11日~21日、プノンペンとシエムレアプ)。コロナ禍によるロックダウンやインバウンド観光客減少のため、これらの社会的企業の収益は激減していた。そのような中、二つの社会的企業は、コロナ禍にあっても三つのロジックを維持するというレジリアンスを呈していた。もう一つの社会的企業は、ドナーからの資金に依存せざるをえない状態にあった。残りの二つの社会的企業は、倒産に追い込まれていた。コロナ収束後のエチオピアでの現地調査(2022年11月14日~28日)において、キリスト教理念をもった初等教育サービスを提供する起業家を対象として実施したインタビューでは、コロナ禍での政府による厳重な規制(半年以上に及ぶ営業停止措置)の影響を大きく受けた状況が明らかになった。しかしカンボジアの事例と同様に、組織の使命から逸脱するのではなく、むしろ困難な状況下であるからこそ、組織の根幹に関わる宗教的使命を蔑ろにせず、ハイブリッドな使命のバランスを保とうとした組織もあり、これらについても今後研究調査を進める予定である。

〔引用文献〕

- 佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法 - 原理・方法・実践』新曜社。
- Archer, M. S.(2003). *Structure, agency, and the internal conversation*. Cambridge University Press.
- Bacq, S. & Lumpkin, G. T. (2021). Social entrepreneurship and COVID-19. *Journal of Management Studies*, 58(1), 285-288.
- Besharov, M. L. & Wendy K. S. (2014). Multiple institutional logics in organizations: Explaining their varied nature and implications. *Academy of Management Review*, 39(3), 364-381.
- Delbridge, R. & Edwards, T. (2013). Inhabiting institutions: Critical realist refinements to understanding institutional complexity and change. *Organization Studies* 34(7), 927-947.
- Kimura, R. (2021). What and how hybrid forms of Christian social enterprises are created and sustained in Cambodia? A critical realist institutional logics perspective. *Religions*, 12(8), 604.
- Rundle, S. (2012). Business as mission hybrids: A review and research agenda. *The Journal of Biblical Integration in Business*, 15(1), 66-79.

- Thornton, P. H. & Ocasio, W. (2008). Institutional logics. In R. Greenwood, C. Oliver, R. Suddaby, & K. Sahlin-Andersson (Eds.), *The SAGE handbook of organizational institutionalism* (pp. 99-129). Sage.
- Wry, T., & York, J. G. (2017). An identity-based approach to social enterprise. *Academy of Management Review* 42(3):437-60.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Rikio Kimura	4. 巻 12
2. 論文標題 What and How Hybrid Forms of Christian Social Enterprises Are Created and Sustained in Cambodia? A Critical Realist Institutional Logics Perspective	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Religions	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/rel12080604	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Tetsuya Morita
2. 発表標題 Mission drift or mission agility or resilience? Theoretical implications of the COVID-19 pandemic on mission drift in faithbased low-fee private schools in Ethiopia
3. 学会等名 Research seminar, Oxford Centre for Mission Studies
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rikio Kimura
2. 発表標題 Development of Various Hybrid Organizational Forms of Christian Social Enterprises in Cambodia
3. 学会等名 Asia Pacific Conference 2022, Ritsumeikan Asia Pacific University
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rikio Kimura
2. 発表標題 Figuring out from below or figuring out from above? Comparison of non-confrontational advocacy of service-providing civil society organizations in urban India and rural Cambodia
3. 学会等名 Civil Society and Democratization: Insights from Service-Providing Nonprofit Organizations, Author Workshop for "Public Administration and Development" special issue (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rikio Kimura
2. 発表標題 Two tales of elucidating the social through critical realist ethnography: Critical realist grounded theory and extended case method compared (Published Proceedings)
3. 学会等名 Adult Education in Global Times: An International Research Conference (AEGT2020), University of British Columbia (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Rikio Kimura	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 18
3. 書名 An NGO's Rights-based Approach between Contextual Appropriateness and Political Transformation in Neo-patrimonial Cambodia: A Critical Realist Analysis, In Natil, I. et al. (Eds.), Barriers to Effective Civil Society Organisations: Political, Social and Financial Shifts	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森田 哲也 (Morita Tetsuya) (30747390)	東京基督教大学・神学部・准教授 (32516)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------